

(様式2)

学校関係者評価報告書

愛媛県立宇和島南中等教育学校
学校番号 49

評価実施日		令和3年3月4日(木)	
委員	氏名	所属等	備考
	堀川 征一郎	学校評議員(創幸会理事長)	
	稲澤 実	学校評議員(JR宇和島駅長)	
	松為 教輔	学校評議員(名門サカイ株式会社代表取締役社長)	
	武部 洋安	学校評議員(下灘漁業組合代表理事組合長)	
	西岡 博文	学校評議員(宇和島警察署 交通課長)	
	廣澤 磯野	学校関係者評価委員(宇和島市人権擁護委員)	
	土居 道德	学校関係者評価委員(伊達博物館館長)	
	野田 克己	学校関係者評価委員(宇和島市立明倫小学校校長)	
	廣田 佳津代	学校関係者評価委員(PTA顧問)	

評価・提言等	提言等に対する改善方策等
<p>1 今年度の評価等について</p> <p>(1) 学習指導</p> <ul style="list-style-type: none">・高評価の項目が多く、適切に対応できている。・「小テストや課題の充実により・・・」という項目について、「課題の充実」とはどういう意味か。小学校では授業後の「ふりかえり」を大切に、その「ふりかえり」を家庭での学習につなげる研究を始めている。・中1生は、例年通り地域学習を行っており、実際に現地ですばる体験的な学習を取り入れながら頑張っている様子にうれしくなった。また、引率の先生の数が多く、共に学ぼうという意欲が感じられた。一人一台端末の時代ではあるが、これからもバランスよく子どもたちに色々なことを体験させながら、学ばせていただきたい。 <p>(2) 生徒指導</p> <ul style="list-style-type: none">・校則、特に髪色の検査が細かくて厳しい、また、自転車検査が厳しい、というような意見がある。・生徒の交通安全指導の評価は高い。教職員が行っている交通指導がよく行き渡っている結果だと思われる。大半の生徒は交通安全に努めており、評価も適切である。ただマナー・ルールを守らない一部の生徒がいることも理解している。一部の者の行動によって全体の評価が下がっていることを多くの生徒に浸透させられれば全体が向上するのではないか。 <p>(3) 進路指導</p> <ul style="list-style-type: none">・評価が高く、前年度とも変わらない結果が出ている。コロナ禍でもきちんとした指導ができていたと思われる。今後も生徒への細かな指導、保護者への情報提供に努めてほしい。・学習時間について、生徒の実態と先生方の指導の評価に若干の差がある。個人に応じた指導を考えてほしい。・進路指導についての生徒の希望と実力との差の問題は難しい。前期課程から、根気強く勉強させる努力をお願いしたい。	<ul style="list-style-type: none">・各教科の授業の中で、学習方法についてのガイダンス機能を強化し、生徒の自主的な学習態度を養う。・毎時間の授業内容に即した復習課題を、多少負荷がかかる程度の分量を課すことで、学習習慣の確立に努める。・前期生については、体験的な学習を継続的に実施していきたい。 <ul style="list-style-type: none">・体育館に全校生徒を集合させられるようになれば、体育館での身だしなみ指導を実施し、重要性を説明する機会を設けたい。・交通関係に関しては、事故が起こってからへの対応では遅い。自転車点検も厳しくすることが、いずれは生徒の安全を守ることにつながるので厳しめの検査は必要である。 <ul style="list-style-type: none">・今後数年間は、制度の変更の影響がある。できるだけ情報を早く伝えることを今後も続けていきたい。また、講演会についても実施する方向で計画したい。・家庭学習の習慣については、各学年、教科と連携して、効果的な指導方法を考えたい。特に中等教育学校の中たるみをいかにして無くすかについて根気強く取り組んでいきたい。

<p>(4) 人権・同和教育</p> <ul style="list-style-type: none"> ・適切に実施されている。今後も継続した指導が大事であると考ええる。 ・コロナ禍の中、全国的に自殺、引きこもり、DV、いじめなど、いずれも増加傾向が見られる。今までもインターネット内でのいじめなど、目に見えにくくなりつつあったのに、コロナ禍でより友達とも顔を合わせ、話す機会が失われ、SOSを言えない児童がいるのではと心配している。学習面では、先生方も工夫し、学力向上に取り組んでいると安心しているが、精神面のサポートの方も変化に目を向けていただき、声かけをしていただきたい。 ・コロナ禍で休校、台風で休校など、ストレスをためないで頑張っていたきたい。 <p>(5) 現職教育</p> <ul style="list-style-type: none"> ・相互授業参観について詳しく知りたい。教科単位で行っているのか。参観後の研究はどのように行っているのか。 <p>(6) 健康・安全指導</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「学校防災教育実践モデル地域研究事業」の指定を受けていることもあり、しっかりと訓練されている結果が評価につながっている。今後も不定期に訓練を行い、生徒へ地震等発生時の措置、行動等についての防災教育を続けてほしい。 <p>(7) 図書・視聴覚・情報教育</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染症拡大の影響で、学校行事等がなかなか実施できない状況のため、今後もホームページをどんどん活用して、保護者にも情報を発信していただきたい。 ・図書の貸出冊数と読書冊数は、目標達成ですばらしい。今年には家にも多かったと思うので、読書にもっと励んでほしい。 <p>(8) 学校評価</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教職員の意識改革と並行して、「学校がやってくれる」ではなく、「学校に対してできることはないか」という周囲の大人の意識改革が必要である。 ・教職員の時間と心の「ゆとり」が、「新しい学校づくり」に必要である。 ・学校改善の取組について、どのように考えられているか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学級活動、ホームルーム活動については、より生徒が主体となった活動ができるような体制づくりに努める。 ・コロナ禍での人権問題を身近な問題としてとらえさせるために、人権委員を中心にシトラスリボンを作成させ、シトラスリボン運動について全校生徒に紹介した。 ・悩みや不安を抱えた生徒のサポートをするために、全校生徒を対象に「学校生活をよりよくするアンケート」調査を2度実施した。結果について学年団を中心に迅速に対応し、その後も継続的な見守りを行っている。 ・県のSNS相談「ほっとえひめ」のしおりや、人権擁護委員会の「子どもの人権SOSモニター」を年間複数回配布して紹介し、利用を促した。 ・来年度は上記の取組をさらに充実させていきたい。 <ul style="list-style-type: none"> ・相互授業参観は、教科、学年を超えて参観している。参観後は、参観者が感想等を準備した用紙に記入し、授業者に渡し、各自の研修の参考にしている。様々な形態の授業を参観することは、自分の授業を見つめ直すきっかけにもなる。今後も、さらに校内外の研修の機会を設けることができるよう努めたい。 <ul style="list-style-type: none"> ・来る南海トラフ地震に向けて、正解は一つでない避難行動を、生徒自身が主体的に考えて取り組めるような訓練を継続して実施していきたい。それと同時に、日頃から防災・避難行動への意識高揚のための啓発活動にも取り組んでいきたい。 <ul style="list-style-type: none"> ・各方面の協力を得て、今年度も開校日にはほぼホームページを更新することができた。今後も迅速かつ適切に情報発信できるように努めていきたい。 ・今年度は、家庭で過ごす時間も多かったためか、図書館での貸出冊数と読書冊数が少し増えた。生徒たちには、好きな本ばかりではなく、様々な分野の内容の本にも挑戦するように働きかけていきたい。 <ul style="list-style-type: none"> ・「教員がしなければならないこと」「教員と他の関係機関が協力してしなければならないこと」「教員がしなくてよいこと」の仕訳に取り組みながら、徐々にその体制を作り、教員の働き方改革に繋げ、生徒と向かい合える時間の確保に努めたい。 ・今回の学校評議員会並びに学校関係者評価委員会でいただいた御指導・御助言をしっかりと来年度の教育活動に反映させていきたい。
<p>2 説明・公表等について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ホームページを見ている保護者も多くいるので、このまま継続で良い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き、機会を逃さず、地域や保護者に向けて、こまめな情報発信に努めたい。

3 学校運営への提言

- ・4段階評価で4, 3の割合が多く、ほぼ前年度と変わりない評価が出ている。生徒、保護者、教職員それぞれの評価の割合も変わりなく実施できていると思われる。コロナ禍で実施できなかったことが多かったが、適切に評価できている。実施できていない行事等の代替など改善方策が提示できている。
- ・「小学生体験入学参加数150人以上」という目標は、現実的な数字ではない。(3月1日現在 宇和島市12歳児童537名・0歳児309名)地域の6年生児童数の20%程度などにはどうか。(少子化のため)定員を減らしてはどうか。
- ・各ステージの教育内容、指導方法、及びその連携の在り方についての研究がなされているものの、少子化の中で今後の見通しはどうか。
- ・前期課程の指導の一層の充実を望みたい。本校は中学校関係の教員が少なく、その指導が高校生に対するよう自主性中心になっているのではないか。中学校関係の先生の意見も多く取り入れて、高校の先生方も中学校の指導を研究、実施してほしい。
- ・中高一貫教育は大きなメリットがある反面、弱点もある。入学する生徒は、ついこの間まで小学校で手取り足取りしてもらっていた子どもである。入学後、少なくとも1年間は、公立中学校と同様に丁寧に指導する必要がある。

- ・新型コロナウイルス感染拡大防止のため、学校行事等は中止または延期、縮小して実施した。しかし、生徒はできる範囲で、できる事を精一杯取り組んできた。今後は、ICT機器等をうまく活用し、コロナ禍でも充実した教育活動が実施できるようにしたい。
- ・今年度から1学級35人と定員は減少したが、それでも生徒数減の影響は避けられない。今後とも、体験入学会や学校説明会などの行事に多くの小学生・保護者に来校してもらえるよう、学校の魅力化に努めていく。中高一貫教育の良さを多くの方々に理解してもらえるよう広報活動に力を入れたい。また、中高一貫教育の強みは何であるか、教職員で共通認識を持ち、6年間見通した質の高い教育実践に全力で取り組みたい。
- ・教職員が心身ともに健康であることと時間的かつ精神的なゆとりが、生徒の笑顔にもつながると考えられる。そのため、教職員の勤務時間の管理や業務改善に努め、働き方改革に取り組んでいきたい。
- ・中学校の教員の配置は少ないのが現状であるが、中学校教員の意見は大変貴重なものであるため、意見を聞く機会を増やし、それを参考にしながら学習指導、生徒指導に取り組んでいきたい。
- ・6年生の生徒と保護者には卒業時に、中高一貫教育に関するアンケートを実施し、忌憚のない意見をいただいている。今後とも、学校評議員・学校関係者評価委員をはじめ多くの方々からの意見を求めて改善に生かしたい。